

子どものワクチンに向けての新しい動き

2015.03.31

インフルエンザA型の流行も収まったと思いきや、函館市内近郊ではインフルエンザB型やアデノウイルス感染症、溶連菌性咽頭炎、ウイルス性胃腸炎などの流行があり、せっかくの春休みを楽しく過ごせないお子さんがいるのはとても残念なことです。

子どもの時にかかる感染症は、ワクチンで予防できるものとワクチンで予防できないものがあります。ワクチンで予防できる病気では春を前に大きな成果が聞こえてきました。

お母さんお父さんの理解のもと進んできた麻疹と風疹の混合ワクチンでは、今年大きな成果を認定してもらいました。それは、国内での麻疹排除が進んだというWHOからの認定です。3年間、日本固有の麻疹株からの発生が認められなかったことです。しかし、一昨年から昨年にかけて風疹の流行による先天性風疹症候群の出生や海外からの輸入麻疹など北海道ではあまり話題にはならなかった事柄が、本州方面では大きな悩みとなりました。20歳から30歳以上の成人の麻疹風疹の二回接種はまだまだ前途多難で、この年代から流行が起こる危険性があります。これから結婚出産を控えるご夫婦でのワクチン接種をぜひご検討ください。小学校入学前までは接種率100%を目指して、粛々と1歳代と年長児の麻疹風疹ワクチンを続けていただきたいと思います。

また昨年大きな話題となった北海道での日本脳炎ワクチン接種は大きな前進を見せ、平成28年4月からの実施に向け動いているとのこと。署名活動に協力していただいたお母さんお父さんに感謝いたします。

接種の要望が強かったB型肝炎のワクチンも平成28年4月からの実施に向けて、作業が進んでいるとのこと。しかし、このワクチンは1歳未満限定で行われる予定ですので、現在自費で受けているお子さんはそのまま自費接種を続けてください。ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチンとともにB型肝炎ワクチンを接種していただけますようによりしくお願いいたします。